

「連GOふくい」 大運動会を開催しました！

よこやま たつひろ
横山 龍寛

●連合福井・事務局長

本覧への地方連合会からの寄稿が初めてということで、大変光栄に思いつつ、地方連合会の取り組み紹介の良い機会とさせていただきます。

連合福井では2012年から「ブランディング（組合の価値づくり活動）」の取り組みを展開しています。まず最初に行ったことは、連合福井をはじめ産別・単組がどう映っているかを知るためのアンケート調査です。組合役員、一般組合員、経営者、そして一般市民と幅広く意見を伺いました。

アンケート結果から課題を絞り込み、その課題ごとに解決策を導き出すための「解決シート」を作成し、どこに問題があるのか、その理由は何かを徹底的に掘り下げ、その中から新しい価値・改善案をまとめていきました。

労働組合そのものが一般市民に知られていない問題を解消するために、地元のラジオ局で連合福井の活動を紹介する番組「なんでも情報室」やテレビCMなど、連合福井の役員総出で作成しました。また、アンケートの中で最も大きな課題の一つであった、一般組合員の多くが「連合福井を知らない」という現状の解決のために、集会等のマンネリ化を避け、常に行事を見直しながら改善を重ねました。メーデーでは、5月1日を式典のみの開催とし、その前後の休日に各地協単位で家族が楽しめるイベント「メーデーフェスティバル」に変更しました。また、春闘決起集会など、より多くの組合員に参加し

てもらいたい集会については、県下1か所開催では参加が限られるため、各地協単位での開催にシフトしていきました。

そして今回ご紹介したいのが、本年5月28日に、連合福井結成以降、初めて開催した「連合福井大運動会」です。これまで実施した行事は、ポーリング大会やソフトバレーボールなど参加人数が限られてしまい、もっと多くの組合員と家族が参加できる楽しい行事を開催しようと協議を重ねた結果、「大運動会」をやろう！ということになりました。すべて手作りで、陸上競技場の手配から、怪我のしない種目の選定、子どもたちが退屈しない工夫、準備運営などなど、そして一番大変だったのが1,200人の選手登録です。最初は、「選手は動員ですか？」、「日当は出ますか？」などと今では笑い話のようなことも真剣に協議し、半年間の準備を重ねました。当日は天候に恵まれ、一番心配した参加者も1,600人を数え、見ている人も参加している人も楽しい一日を過ごすことができました。

常に行事の見直しと改善を重ねることにより、役員の負担は減りませんが、加盟組合員4万人が一体となった取り組みに大きくつながっています。

地方連合会だからできる・やらなければならない、そんな取り組みにこれからも邁進しますので、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。